



**Data** 2023-34

監督・脚本: キム・ハンミン  
出演: パク・ヘイル/ピョン・ヨハン/アン・ソンギ/ソン・ヒョンジュ/キム・ソンギユ/キム・ソンギユン/キム・ヒャンギ/オク・テギョン/コンミョン

## 👁️👁️ みどころ

『日本海大海戦』(69年)をはじめ、『ベン・ハー』(59年)や『クレオパトラ』(63年)に見る海戦は迫力満点だが、1592年に始まった文禄・慶長の役(壬辰倭乱)における閑山(ハンサン)島海戦とは?

日本海大海戦における日本の英雄が東郷平八郎・秋山真之なら、壬辰倭乱における朝鮮国の英雄はイ・スンシン(李舜臣)。本作に見る、“T字戦法”にも似た“海上に城を築く”作戦とは?

「イ・スンシン3部作」の第1作たる『バトル・オーシャン 海上決戦』(14年)は、歴代観客動員数NO. 1のヒット作だが、本作も大ヒット!そりゃ朝鮮(韓国)にしてみれば、このネタはWBCの決勝戦で侍ジャパンが米国に競り勝ったのと同じように、何度見ても興奮する物語だろう。

それはそれとして認めるものの、尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領の登場で日韓関係の改善が図られている昨今、イ・スンシン3部作の第3作は、日本軍の将軍を韓国人俳優が下手な日本語で演じるのではなく、日韓合同作品とし、日本人俳優に演じさせては?それができれば、日韓関係は大きく改善するはずだと私は確信!

—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————

### ■□■ハンサンとは?戦国時代史上最大の海上決戦とは?■□■

邦題を『ハンサン 一龍の出現一』とした本作は、一体何の映画?それがサッパリわからなかったが、HANSAN(ハンサン)とは、閑山島のこと。それでも尚わからなかったが、「戦国時代史上最大の海上決戦」と聞けば、なるほど、なるほど。豊臣秀吉の朝鮮出兵は彼の人生最大の過ちだが、彼の朝鮮征伐と明国征伐の野望を打ち砕いたのは、当時、朝鮮王・宣祖(ソンジョ)の下で全羅左道水軍の節度使(将軍)を務めていた李舜臣(イ・ス

ンシン)だ。太閤殿下こと豊臣秀吉の朝鮮出兵が始まったのは1592年4月。日本史では、“文禄・慶長の役”として知られているが、朝鮮では“壬辰倭乱”として知られており、イ・スンシンは、日本の侵略戦争から朝鮮国を守った英雄とされている。

そう聞いて、私が思い出したのが、かつてパソコンの画面で観た『バトル・オーシャン 海上決戦』(14年)。同作は、1,760万人という歴代観客動員数NO.1のヒット作だが、本作はキム・ハンミン監督の「イ・スンシン3部作プロジェクト」の第2作に当たるものらしい。キム・ハンミン監督が第1作たる『バトル・オーシャン 海上決戦』で描いたのは、鳴梁海戦。それに対して、本作が描くのは閑山島海戦だ。日本人にとって最も有名な海戦は、日露戦争における「日本海海戦」。これは1969年の映画『日本海大海戦』として有名だし、NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』(09~11年)の中の物語としても有名だ。それに対して、閑山(ハンサン)島の海戦とは？

### ■□■鶴翼の陣 vs 魚鱗の陣による激突をたっぷりと■□■

イ・スンシン3部作の第1作たる『バトル・オーシャン 海上決戦』で描かれた鳴梁海戦は、330隻余りの日本軍をわずか12隻の朝鮮軍が迎え撃ち大勝利を収めたものだが、そこには潮の流れを熟知したイ・スンシンが、ある条件下で起こる“渦巻き”を利用する大戦略があった。これは「三国志」で有名な「赤壁の戦い」において、東南の風が起きることを予知した蜀の諸葛孔明が、魏の曹操の大船団に火攻めを仕掛けて大勝利したのと同じような、“奇策”による勝利だ。それに対して、イ・スンシン3部作の第2作たる本作が描く閑山島海戦はそうではない。

朝鮮も日本もあらゆる知識の源泉は中国だから、戦争における戦略・戦術についてもすべて中国から学んでいる。その最も有名なものが“孫子の兵法”だが、鶴翼の陣 vs 魚鱗の陣も中国から学んだ有名な戦法の一つ。そして、本作で“海上の城をつくる”と宣言したイ・スンシンが採用した戦術が鶴翼の陣。それに対して、日本軍船団が採用したのが魚鱗の陣だが、それぞれの戦法の狙いは？

ちなみに、『クレオパトラ』(63年)では、オクタウィアヌス率いるローマ軍と、エジプト女王クレオパトラと結んだ旧ローマの将軍アントニウス率いる船団との一大海戦が後半のハイライトだったが、本作後半はそれに勝るとも劣らない朝鮮水軍 vs 日本水軍、鶴翼の陣 vs 魚鱗の陣の激突になるので、それをたっぷり楽しみたい。

### ■□■亀船の威力は？その形状は？活用法は？vs 安宅船は？■□■

旧大日本帝国海軍は、世界一の巨大戦艦・大和と武蔵を完成し保有したが、時代は既に戦艦 vs 戦艦の艦隊決戦から、航空機 vs 艦船の戦いに移行していた。『クレオパトラ』でも、また『ベン・ハー』(59年)でも、当時の戦艦の漕ぎ手は人間だったが、それは16世紀の閑山島海戦でも同じ。しかし、「龍の出現」というサブタイトルがついた本作では、卓抜した攻撃力と鉄壁の防御力を誇る装甲艦である朝鮮軍の亀船(亀甲船)が登場するので、その形状、その威力、そしてその活用法に注目！

他方、日本で毛利水軍を討伐するため、織田信長が鉄甲製の大型軍艦を作って「木津川口の戦い」で対抗したことはよく知られている。その発展型の軍艦として本作に登場するのが、天守閣が船に乗ったような安宅船だから、とくに日本人の観客はそれにも注目！もちろん、これは旗艦として総大将たる脇坂が乗る日本最強の軍艦だが、亀船 vs 安宅船の衝突は如何に？

## ■□■艦船対決の裏では熾烈な諜報戦も！■□■

司馬遼太郎の小説『鼻の城』（59年）では、織田信長によって滅ぼされた伊賀忍者の生き残りである石川五右衛門が、信長の後を継いだ豊臣秀吉の暗殺を目指すスリルに満ちた物語が興味深かった。朝鮮の李王朝の時代に、伊賀忍者のようなスパイの役割を果たす人間がいたのかどうかは知らないが、本作には、危険を冒して日本軍に侵入し、敵の作戦を探る朝鮮軍の間者イム・ジュニョン（オク・テギョン）や日本軍に侵入し脇坂の近くで活動する朝鮮軍の間者チョン・ボルム（キム・ヒャンギ）が登場するので、それに注目！

他方、本作で興味深いキャラとしてもう一人登場するのが、“降倭”の俊沙（キム・ソンギュ）。降倭とは、「朝鮮軍に投降し、共に戦う日本兵」のことで、日本軍の武将だった俊沙は、なぜそんな降倭になったの？それは、“ある事情”で朝鮮軍の捕虜となった彼が、イ・スンシンから直接二人だけでの尋問を受けた際、命惜しきで家臣を盾にした主君に絶望すると共に、部下を守るために身を挺して戦ったイ・スンシンの将器に感銘を覚えたためだ。つまり、俊沙はここでイ・スンシンが俊沙に対して語った、「この戦いは義と不義との戦いだ。」という言葉に感銘を受け、「自分も義のために戦う」と腹を決め、イ・スンシンに仕えることを誓ったわけだ。しかし、これはいくらなんでも朝鮮側に偏った脚本では？それはともかく、本作では艦船対決の裏で展開される熾烈な諜報戦にも注目！

また、“韓国之宝”とも言うべき俳優、アン・ソンギが、本作では、朝鮮最高の航路専門家のオ・ヨンダム役として閑山島海戦の勝敗を握る重要な役割を果たすので、それにも注目！

## ■□■“海上に城を築く”作戦とは？その壊滅力は？■□■

「賤ヶ岳の七本槍」の武将として、加藤清正や福島正則そして加藤嘉明を知っていても、脇坂安治を知っている日本人は少ないだろう。大阪夏の陣、冬の陣で豊臣秀頼と淀君を守ったことで有名な片桐且元もその一人だが、脇坂安治はたぶん日本より韓国で、イ・スンシンに敗れた日本軍の総大将という意味で有名らしい。本作では、まず脇坂安治が、わずか2千の手勢で奇襲を仕掛け、朝鮮の勤王軍5万を壊滅させるというストーリーが描かれ、脇坂の武将としての能力の高さを明示する。その脇坂は、その卓越した攻撃能力と防御力で日本軍にとって畏怖の対象となっていた亀船の分析はもとより、諜報戦にもしっかり対応。亀船の図面を入手したことによって、その弱点に気づいた脇坂はイ・スンシンからの先制攻撃はないと判断し、“鶴翼の陣”で防御体制をとる朝鮮軍に対し、“魚鱗の陣”で突

撃した。脇坂の諜報は敵のみならず身内にも及び、共闘すべき仲間であるはずの加藤嘉明や九鬼嘉隆の軍艦を奪い取り、合計140隻の大船団で閑山島海戦に臨むことに。『日本海大海戦』では、秋山真之参謀が考案したT字戦法によってロシアのバルチック艦隊を壊滅させたが、イ・スンシンが宣言していた“海の上に城を築く”作戦とは一体ナニ？

オ・ヨンダムムのベテラン武将らしい最後の御奉公によって、イ・スンシンは脇坂の大艦隊を潮の流れが激しい見之梁までおびき出すことに成功したから、シメシメ。ついに両軍の主力が対峙することになったが、艦船の数で圧倒的に勝る日本軍を打破するためにイ・スンシンがとったT字戦法にも似た“海上に城を築く”作戦とは？

円谷英二が特撮監督として参加した最後の映画になった『日本海大海戦』の特撮は、T字戦法のキモとなる“敵前大回頭”をプールで撮影するため、107隻の艦船のミニチュアが用意されたそうだから、その撮影風景はまさに圧巻！もっとも、連合艦隊司令長官、東郷平八郎の威厳を示す戦艦三笠のミニチュアだけは、13メートルにも及ぶ巨大なものが作られたようだ。それに対して、本作は前代未聞の、全く水を使わない撮影をVFXチームで実現させたそうだが、その手法は？そしてまた、大スクリーン上いっぱい広がり展開される、圧巻の艦隊決戦は？本作のクライマックスは、ただただそれを楽しみたい。

### ■□■韓国人俳優による日本語のセリフには大きな違和感が！■□■

ヒトラーもの映画、ホロコーストもの映画の本場は当然ドイツだが、ハリウッドでも大量に作られている。その代表が、『ワルキューレ』（08年）（『シネマ22』115頁）と『イングリシアス・バスターズ』（09年）（『シネマ23』17頁）。前者はトム・クルーズ、後者はブラッド・ピットと、ハリウッドを代表する俳優が主演している上、ストーリーもメチャ面白いが、私がただ一つ気に入らないのが、ドイツ語劇ではなく英語劇であることだ。『ヒトラー ～最期の12日間～』（04年）（『シネマ8』292頁）や、『帰ってきたヒトラー』（15年）（『シネマ38』155頁）等は全編ドイツ語の映画。さらに、私の大好きなU・ボートシリーズの1つである『U・ボート』（97年）（『シネマ16』304頁）や、『U・ボート 最後の決断』（03年）（『シネマ7』60頁）等も当然全編ドイツ語劇だ。

それと同じように（？）、イ・スンシン3部作の第1作も第2作も日本人俳優はごく例外で、主要な役柄はすべて韓国人俳優が演じている。そのため、本作における日本軍の重要人物たる脇坂安治や加藤嘉明等も全て韓国人俳優が演じている。『ワルキューレ』や『イングリシアス・バスターズ』は、アメリカ人俳優が英語でドイツを舞台にヒトラー暗殺計画を遂行していく不自然さが目立っていたが、それが“耳につく”ことはなかった。しかし、韓国人俳優が下手クソな日本語で真面目に日本語のセリフを喋っていると、大きな違和感が！それが、現代語でなく、戦国時代の日本語になるとなおさらだ。

その不自然さは、第1作で日本軍のリーダー・来島通総役を演じたリュ・スンリョンの

セリフでも耳についていた（目にもついていた）が、第2作の本作で日本軍のリーダー・脇坂安治役を演じたピョン・ヨハンも全く同じだ。日韓関係が悪化している時代ならそれもやむを得ないが、2022年5月に大統領に就任した保守党の尹錫悦（ユン・ソンニョル）が日韓関係の改善に懸命となっている2023年3月の今、イ・スンシン3部作の第3作は日韓共同製作とし、日本軍の将軍たちは日本人俳優で演じられないものだろうか？

2023（令和5）年3月23日記